

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	フランス、リール大学語学・文化研修プログラム	
学部・研究科名	全学教育機構、初修外国語教育部門	
プログラム実施期間	2020年2月15日～3月1日	
研修先(国・都市・施設名)	フランス、リール	
参加学生数	9名	知の森からの支援者数 9名
プログラム概要	<p>研修の内容は、以下の通りである。</p> <p>1)ヨーロッパの大学における、アカデミズムの雰囲気を経験 大学発祥の地であるヨーロッパでその歴史を学び、また、様々な教育や最新の研究に触れることで、大学とアカデミズムというものに対する意識を新たにしてみよう。</p> <p>2)リール大学附属語学学校SUPIにおいて、コミュニケーション学習を中心とした授業を受講 信州大学でもフランス語会話の授業は開講しているが、フランス語を運用する機会はどうしても少なくなる。集中的にコミュニケーション力を養える環境に身を置くことを目的とした。</p> <p>3)リール大学の学生(多くは日本語学習者)との交流 リール大学の日本語学習者と、日本語とフランス語の両方を用いて交流する。</p> <p>4)リール市内および郊外の諸施設の見学と視察 語学学校の文化アトリエとして、リール市内の施設を見学し、北フランスの歴史を学ぶ。また、各自の専攻や興味・関心に合わせて、自分で行き先とテーマを決め、個人研修を行った。</p> <p>上記以外に、研修の事前・事後学習も実施した。</p>	

実施状況・成果

【事前学習】

語学学校授業の準備として、夏休み以降、特に1年生を中心としてフランス語作文の指導を始めた。毎日、量を少しずつ増やしつつ日記をつけてもらい、徹底して添削を行った。

リールはもともと織物産業で裕福な地で、その利権をめぐる複数の国が争った歴史を有するため、現在においても文化構造が大変複雑である。こうした歴史に関する資料を配布し、事前知識の習得に努めた。

【研修】

リール大学附属語学学校では、コミュニケーションと文化学習の授業を主に受けた。また、リール大学のフランス語学習者の学生たちと、日本語とフランス語で交流し、異文化について学ぶ機会を得た。大学構内の様々な施設や、各自の専攻に合わせた研究室訪問、学部授業への特別参加も許可していただき、ヨーロッパの大学のアカデミックな雰囲気を体験することができた。

第1週目の午後には、語学学校主催の文化アトリエに参加し、リール宮殿美術館でフランドル絵画について学んだり、北フランスの食文化を体験したりした。第2週目の午後は、各自の専攻や興味・関心に合わせた個人研修を実施した。研修先は、自然史博物館(19～20世紀の欧州の博物学の歴史の学習)や、教会(宗教文化や建築についての学習)などであった。これら一連の学習や研修内容を通して、各自の専攻学習へのモチベーションがより高まることと、グローバルな感覚を養い、見聞を広げ、広い視野を持つようになることなどが期待される。

また、研修中は手洗いうがいを徹底し、健康管理をしっかり行った。

【事後学習と成果】

新型コロナウイルス対策により、現在、学生の大学入構は基本的に禁止されている。当初は、個人研修に関する発表会を開催する予定であったが、現時点(5月)においては実施できていない。研修参加者に各自の専攻や興味・関心と関連させて、今回の研修で得られたものについてレポートを作成してもらった。参加者の中には、2020年度9月よりフランスに長期留学する予定の学生が含まれており、研修後のレポート内容より、留学へのモチベーションをより高めることができたことが判明した。昨年度においても、ラ・ロシェル大学への留学者が本研修に参加しており、長期留学への橋渡しとしての役目を果たしているといえるだろう。

フランス語検定試験も現在は中止となっている。秋季試験が実施されるようであれば、安全に配慮しつつ受験を推奨したい。とはいえ、事前学習修了時に、すでに1年生1名、2年生2名が仏検3級に合格するという結果は得られている。通常ならば、仏検3級は第二外国語としての学習2日目修了時(学習時間200時間相当)の目標とされるレベルであり、1年生が合格することは非常に稀である。また、研修最終日に行われた語学力の判定においては、2年生1名、1年生1名が欧州評議会認定レベルにおいてA2(仏検準2級に相当、通常ならば大学の3年修了程度とされる)という、非常に高い評価を得ることができた。フランス語を徹底的に聞き、話さなくてはいけない環境に身を置くことで、短期間で力を伸ばすことができたものと推測される。研修の成果は長い目で見る必要があるものの、語学運用能力において少なくともある程度の成果をおさめたといえるだろう。その他の参加者も全員A1(仏検3級相当)を獲得することができた。

学生の声①-人文学部 学生

本プログラムでは、語学学校で実際に授業を受けるとともに、様々な現地の施設を見学させていただきました。授業はフランス語のみで展開されますが、現地の教授がジェスチャーや説明などを交えて、わかりやすく伝えてくださるので、楽しみながら語学力を磨くことができます。施設見学においては、参加者それぞれが、自分の興味に沿った施設を訪問することができるので、専門的な知識も深まります。学びが多く、大変実りのある研修でした。

学生の声②-繊維学部 学生

リール大学での語学授業や院生との交流では会話表現を覚えるきっかけとなり、自己紹介や趣味の話を通して異文化交流ができました。私は生物専攻のため、個人視察で訪れたリール自然史博物館は興味深かったです。

また、夜に見学した教会のミサは、フランスという国にキリスト教の教えが生活に深く根付いていることを肌で体感することができ、貴重な体験となりました。帰国後も院生と連絡が続いており、勉強の意欲が増しました。将来もフランス語を活かせるよう、この経験をステップとして、さらに学んでいきます。

語学学校で



自然史博物館で見学

